

J O S A I
U N I V E R S I T Y
G R A D U A T E S C H O O L O F
P H A R M A C E U T I C A L S C I E N C E S

2019

城西大学

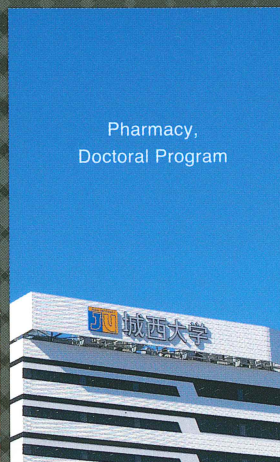
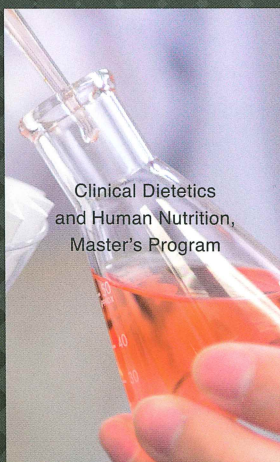
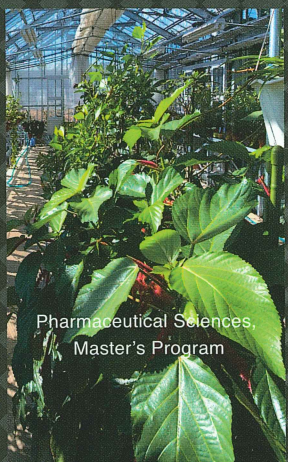
大学院 薬学研究科

博士前期課程
薬科学専攻
[2年制]

博士前期課程
医療栄養学専攻
[2年制]

博士課程
薬学専攻
[4年制]

博士後期課程
薬科学専攻
[3年制]



大学院の概要

OVERVIEW

より深い専門性と、より広い視野で
人びとの「健康」をサポートする、
スペシャリスト養成を目指して

QOL (quality of life : 生活の質) に基づいた国民一人ひとりの健康増進をサポートしていくために、より高度、広範で、深い能力を持つ薬学・栄養学の専門家が、今、強く求められています。こうした社会のニーズにこたえていくため、城西大学大学院薬学研究科ではより深い専門性とより広い視野で人びとの「健康」をサポートする人材を育成しています。充実した講義・演習・実習等を通して、より深く専門性を探究すること。そして、より複雑化していく「健康」を分析するため、専門以外にも領域を超えて学識を養い、多角的にアプローチすること。これら二方向からの学びによって、高度な専門性と幅広い分野に対応できる応用力を兼ね備える、バランスの取れた専門家の育成を目指していきます。そして、創薬・化粧品開発、機能性食品開発、医療等、それぞれの現場で「健康」に幅広く貢献できる、そんなスペシャリストを養成していきます。

C O N T E N T S

- 01 大学院の概要
- 02 各専攻の紹介
- 03 各専攻の理念
- 05 新研究分野設置の概要
- 06 博士前期課程の概要
- 07 薬科学専攻 博士前期課程 (2年制)
- 11 医療栄養学専攻 博士前期課程 (2年制)
- 15 薬学専攻 博士課程 (4年制)
- 19 薬科学専攻 博士後期課程 (3年制)
- 23 施設・設備
- 26 城西大学の建学の精神と目標 / 城西大学の沿革

城西大学 大学院 薬学研究科 全体図



各専攻の紹介

博士前期課程 薬科学専攻 [2年制]

Pharmaceutical Sciences,
Master's Program

国民一人ひとりが主観的な生活と生命の質を高く維持し、健康のより良い状態を目指すことを支援できる
高度な専門職業人の育成を目指します

薬学が対象とする広範な専門分野のうち、医薬品・化粧品・機能性食品・消費生活用製品等の、ヒトが摂取または暴露する可能性がある化学物質の研究開発に対して、安全性に主眼を置いた広い視野に立って携わることのできる高度専門職業人を対象として学問的基盤をさらに深化させることによって高度、広範な医療に広く携わることができる高度な専門職業人の育成を目指します。

4つの研究分野

基礎薬学
分野

化粧品機能
分野

食品栄養機能
分野

医薬政策管理
分野

博士前期課程 医療栄養学専攻 [2年制]

Clinical Dietetics and Human Nutrition,
Master's Program

医療や人々の健康に寄与できる
医学、薬学、栄養学の素養を身につけた
高度な専門職業人の育成を目指します

「医療の中で活躍できる」「高度な機能を有する食品を設計できる」「食毒性を回避した食事設計ができる」高度な専門職業人の養成を主たる目的としています。チーム医療に主眼を置き、バイオサイエンスを基盤とした食、薬、毒の生体作用を理解するための基礎知識を修得し、疾病予防への応用、機能性食品の開発に携わることができる高度な専門職業人の養成を目指します。

3つの研究分野

医療栄養
分野

食毒性
分野

栄養政策管理
分野

博士課程 薬学専攻 [4年制]

Pharmacy,
Doctoral Program

薬学分野の学問的基盤を充実し、保健・医療の高度化を推進して
国民一人ひとりのQOL (quality of life : 生活の質) を支援できる
きわめて高度な専門性を有する医療人の育成を目指します

主に6年一貫の薬剤師養成課程を修了した上で、さらに豊かな学識を養い、高度に専門的な業務遂行に必要な研究能力を身につけることを目的としています。近年の生命科学の急速な進歩に対応できるよう、生命科学の全体像を学び、豊かな素養を涵養し、さらに薬学の学識を深化することで、スペシャリストとしての学識と専門性を養い、きわめて高度な専門性を有する医療人の育成を目指します。

3つの研究領域

薬探索
領域

生体防御
領域

医療
領域

博士後期課程 薬科学専攻 [3年制]

Pharmaceutical Sciences,
Doctoral Program

Pharma-Nutrition* (薬学分野と食品・栄養分野の融合分野) の視点で
医学、薬学、栄養学の領域を広く俯瞰し人々の健康増進に寄与できる
きわめて高度な専門職業人の育成を目指します

医薬品、化粧品、生活消費化学品、機能性食品を研究・開発・評価するために必要な学識と専門性を養い、きわめて高度な専門職業人の育成を目標とします。そのため、薬学分野と食品・栄養分野を融合させた、Pharma-Nutritionという学際分野の視点を積極的に導入・展開し、生命科学の最新成果を取り入れた、より高度な薬科学の修得を目指します。
*Pharma-Nutrition (P.22参照)

4つの研究分野

医薬品・
化粧品機能
分野

基礎薬学
分野

食品機能
分野

食毒性
分野

各専攻の理念・目的

THE SPIRIT OF STUDY

理念

建学の精神に基づき、薬学研究科の各専攻で掲げる専門的能力及び豊かな人間性と社会性を兼ね備えた人材を育成し、もって人類文化の発展に寄与することを理念としています。

薬学研究科 3つの ポリシー (全体)

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

薬学研究科は、個々人が主観的QOL (quality of life: 生活と人生の質) を高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な能力および豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目指します。そうした人材に求められる各専攻で掲げる専門的能力を修得し、各専攻の学位授与の方針を満たした人に、修士もしくは博士の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科では、各専攻の教育研究上の目的を達成するために、それぞれ分野・領域を設定し、特論科目、演習科目、修士論文研究もしくは博士論文研究のカリキュラムを編成しています。薬学専攻 (博士課程) は、薬学分野の高度な学術的基盤を身につけ、主に医療薬学領域において極めて高度の専門性と豊かな学識を有する人材を育成するために必要なカリキュラムを編成しています。薬科学専攻 (博士後期課程) は、薬学・栄養学・化粧品学分野の高

博士前期課程 薬科学専攻 [2年制] 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

薬学研究科薬科学専攻 (博士前期課程) は、薬学・栄養学・化粧品学分野の学問的基盤に関連した、専門性の高い能力および広い視野と高い興味を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。本研究科薬科学専攻 (博士前期課程) のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士 (薬科学) の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会でリーダーとして活躍できる能力
- 薬科学の素養を身につけた高度専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 医薬品、化粧品 (化粧品) 成分、食品成分、生活化学による生体作用を、最新の生命科学の進展の成果に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した化粧品 (化粧品) の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した生活化学の開発・研究・情報提供、健康と医薬品を政策面・管理面から広く評価・実践、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科薬科学専攻 (博士前期課程) では、それぞれの専門分野 (基礎薬学、化粧品機能、食品栄養機能、医薬政策管理) において、グローバルな視野を有し高い専門性を身につけた高度専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端薬科学特論、総合薬科学演習を含む各分野の特論・演習を選択・必修科目として、高度で専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野を持ち、社会の維持・発展に寄与する専門職業人を養成します。
- 特論演習では、それぞれが専門とする分野において求められるスペシャリストとしての高度な知識と技能の修得を目指します。
- 修士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションをおして課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより、高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

薬学研究科薬科学専攻 (博士前期課程) では、基礎薬学分野、生体防御分野、化粧品機能分野、食品栄養機能分野および医薬政策管理分野において、以下に示すいずれかの学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 自然科学における基本的な知識を発展させ、グローバルレベルで研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人
- 薬学的視点に立って、安全性を考慮した医薬品、化粧品 (化粧品)、機能性食品、生活化学の開発、製造、研究、情報解析に関して専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある人
- 薬学分野のみならず、薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置するPharma-Nutrition分野 (薬科学分野) にも立脚した薬科学の学問領域を発展させたいと思う意欲のある人

期待する能力：知識・専門性

- 薬科学専攻 (博士前期課程) において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
- 医薬品や健康に関連した政策や経営学に興味を持てる人
- 入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学、経営学、公衆衛生学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えるとともに、論理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人

博士前期課程 医療栄養学専攻 [2年制] 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻 (博士前期課程) は、栄養学・栄養管理分野の学問的基盤に関連した、専門性の高い能力および広い視野と高い興味を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる地域社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。本研究科医療栄養学専攻 (博士前期課程) のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士 (医療栄養学) の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会でリーダーとして活躍できる能力
- 栄養学・栄養管理、薬学、医学の素養を身につけた高度専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最新の生命科学の進展の成果を基礎として、食、薬、毒の生体作用を、物質によって引き起こされるものとして同様に議論することができる能力
- 食品と薬の相互作用を念頭に置き食毒性を考慮した高度な栄養管理と栄養教育の実践、食品を生体学的、薬力学的、毒性学的に評価し、これらがヒト恒常性に与える影響を評価のレベルで理解、健康と栄養を政策面・管理面から広く評価・実践、のいずれかができる能力
- 医療栄養学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、種々要因のグローバルな変化が地域社会で暮らす一人ひとりの健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻 (博士前期課程) では、それぞれの専門分野 (医療栄養、食毒性、栄養政策管理) において、グローバルな視野を有し高い専門性を身につけた高度専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端医療栄養学特論、総合医療栄養学演習、病院・保険薬局実習を含む各分野の特論を選択・必修科目として、高度で専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野を持ち、地域社会の維持・発展に寄与する栄養管理における専門職業人を養成します。
- 特論演習では、それぞれが専門とする分野において求められるスペシャリストとしての高度な知識と技能の修得を目指します。
- 修士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価を目的とした定期的なディスカッションを通して課題研究を遂行し、最終的に修士論文として完成させることにより、高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。
- 栄養教諭一種免許状を有している人が、所定の単位を修得すれば栄養教諭専修免許状を取得できるカリキュラムを編成しています。

アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

薬学研究科医療栄養学専攻 (博士前期課程) では、医療栄養分野、食毒性分野および栄養政策管理分野において、以下に示すいずれかの学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 自然科学における基本的な知識を発展させ、グローバルレベルで研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人
- 栄養学と医療、特に薬学との関係に興味と問題意識をもち、専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある人
- 薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置するPharma-Nutrition分野を独立した分野 (薬科学分野) として発展させたいと思う意欲のある人

期待する能力：知識・専門性

- 医療栄養学専攻 (博士前期課程) において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
- 栄養士・管理栄養士資格を有している人
- 栄養学や健康に関連した政策学や経営学に興味を持てる人
- 入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、生化学、生理学、栄養学、薬理学、経営学、公衆衛生学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えるとともに、論理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人

教育研究上の目的

薬学研究科は、個々人が主観的な生活と人生の質（主観的QOL）を高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために、必要とされる高度な能力を有し、国際化への対応が求められる社会において、リーダーとして貢献し得る人材を育成することを目的としています。

高度な学術的基盤を身につけ、それらの学際的特徴を有する薬科学分野において極めて高度の専門性と豊かな学識を有する人材を育成するために必要なカリキュラムを編成しています。

薬科学専攻（博士前期課程）は、薬学・栄養学・化粧品学分野に関連した、専門性の高い能力および広い視野と高い興味を有する人材を育成するために必要なカリキュラムを編成しています。

医療栄養学専攻（博士前期課程）は、栄養学・栄養管理分野に関連した、専門性の高い能力および広い視野と高い興味を有する人材を育成するために必要なカリキュラムを編成しています。

■ アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

薬学研究科では、広い知識と深い専門性の学びを提供し、個々人が主観的QOLを高く維持し健康のよりよい状態を目指すことを支援するために必要とされる高度な能力を有する人材の育成を目指します。城西大学の建学の精神と教育目標を理解するとともに、薬学研究科の教育方針に共感し、教育課程に積極的に取り組む姿勢をもち、各専攻における入学者受入の方針に掲げた学力や意欲を有する人を受け入れます。

博士課程 薬学専攻 [4年制] 3つのポリシー

■ ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）は、薬学分野の高度な学術的基盤を身につけ、おもに医療薬学領域において極めて高度の専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる地域社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬学専攻（博士課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（薬学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる地域社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や医療倫理にかかわる能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協動的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボロミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療の進歩や種々要因のグローバルな変化が地域社会にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

■ カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、それぞれの専門領域（薬探索、生体防御、医療）において、生命科学の全体像を学んだ、医療薬学分野の豊かな学識と極めて高度の専門性を有する専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論を必修科目とし、医療薬学における高度な専門的な知識の修得および豊かな学識の涵養を図り、急速に進む国際化に対応した地域社会の維持・発展に寄与できる能力を養成します。
- 特論演習では、各領域それぞれが専門とする教育・研究を対象とした知識と技能を修得し、自立した研究能力を有するスペシャリストを目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて策定された研究方針を、副研究指導教員も加えた定期的なディスカッションをとおして形成的評価を繰り返します。最終的に博士論文として完成させることにより極めて高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

■ アドミッション・ポリシー

（入学者受入の方針）

薬学研究科薬学専攻（博士課程）では、薬探索、生体防御および医療の各領域において、以下の学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 薬学の専門知識を、グローバルな視点で個々人の主観的QOL（quality of life：生活と人生の質）を高く維持することに活用しようとする強い意欲のある人
- 先進の探求的研究に基づく知見を広く収集し、それにより得られた高い問題解決能力を地域社会における医療と人々の健康増進に活かす意志のある人

期待する能力：知識・専門性

- 薬剤師としての資格を有するか、それと同等な有機化学、物理化学、生化学、生理学および薬理学の確かな学力を有する人
- 薬学専攻（博士課程）において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：卒業研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えるとともに、医療倫理において求められる能力についても深く考察し、地域に生活する人々の問題を解決するために意欲的に努力する人

博士後期課程 薬科学専攻 [3年制] 3つのポリシー

■ ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）は、薬学・栄養学・化粧品学分野の高度な学術的基盤を身につけ、主にそれらの学際的な内容を特徴とする薬科学分野において極めて高度の専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、国際化への対応が求められる社会の維持・発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬科学専攻（博士後期課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士（薬科学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 極めて高度の専門性と豊かな学識を有した研究者、専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協動的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
上記に加えて以下のいずれかの能力を有することとします。
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、化粧品（化粧品）、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボロミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品・化粧品（化粧品）の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・製造・情報提供、食品の組み合わせ、食品と医薬品の組み合わせを生理学的、薬動学的、毒性的に評価する研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、種々要因のグローバルな変化が人々の健康増進にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力
- 高度な医療や栄養管理を科学的根拠に基づいて発展させることのできる能力

■ カリキュラム・ポリシー

（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、それぞれの専門分野（基礎薬学、医薬品・化粧品機能、食品機能、食毒性）において、グローバルな視野を有する極めて高度の専門性と豊かな学識を有する研究者、専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 高度先端薬科学特論、レギュラトリーサイエンス特論、ドライリサーチ特論を必修科目とし、高度な専門的な知識の修得および学識の涵養を図り、グローバルな視野を持ち、社会の維持・発展に寄与する高度専門職業人を養成します。
- 特論演習では、各分野でそれぞれが専門とする教育・研究を対象とした極めて高度な知識と技能の修得し、グローバルなレベルで活躍できるスペシャリストを目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的評価に耐えうる定期的なディスカッションをとおして課題研究を遂行し、最終的に博士論文として完成させることにより極めて高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

■ アドミッション・ポリシー

（入学者受入の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、基礎薬学、医薬品・化粧品機能、食品機能および食毒性の各分野において、以下に示すいずれかの学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 自然科学における確かな知識とグローバルレベルで高度な研究推進能力を人々のために活用しようとする強い意欲のある人
- 薬学・薬科学の学問的深化を追究する中で、医薬品、機能性食品、化粧品（化粧品）、生活化学と人々の健康との関係に興味と問題意識をもち、それにより得られた統合的かつ専門性の高い問題解決能力を医療と人々の健康増進、主観的QOL（quality of life：生活と人生の質）の向上に活かす意志のある人
- 薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置するPharma-Nutrition分野（薬科学分野）を薬学的にグローバルな視点で発展させたいと思う意欲のある人
- 高度な医療や栄養管理を科学的根拠に基づいて発展させたいと思う意欲のある人

期待する能力：知識・専門性

- 薬科学専攻（博士後期課程）において研究を行うために必要な基礎学力とプレゼンテーション能力を有する人
入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：修士論文研究、英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考えるとともに、倫理的な態度をもってそれらの解決に意欲的に努力する人

*Pharma-Nutrition (P.22 参照)

医薬政策管理分野・栄養政策管理分野がスタート

薬学をベースに質の高い医療を実践する、高度職業人を育成します。

超高齢社会を迎え、医療を取り巻く状況がますます複雑化する中、将来のより良い医療システムを実現するためには、医療・薬学の知見と社会科学の研究成果とを合わせた学際的なアプローチが不可欠になっています。多職種と連携する専門性とマネジメントの視点を合わせ持った人材を育成するため、本学は、薬学系大学院では国内初となる医薬・栄養政策管理分野を立ち上げました。

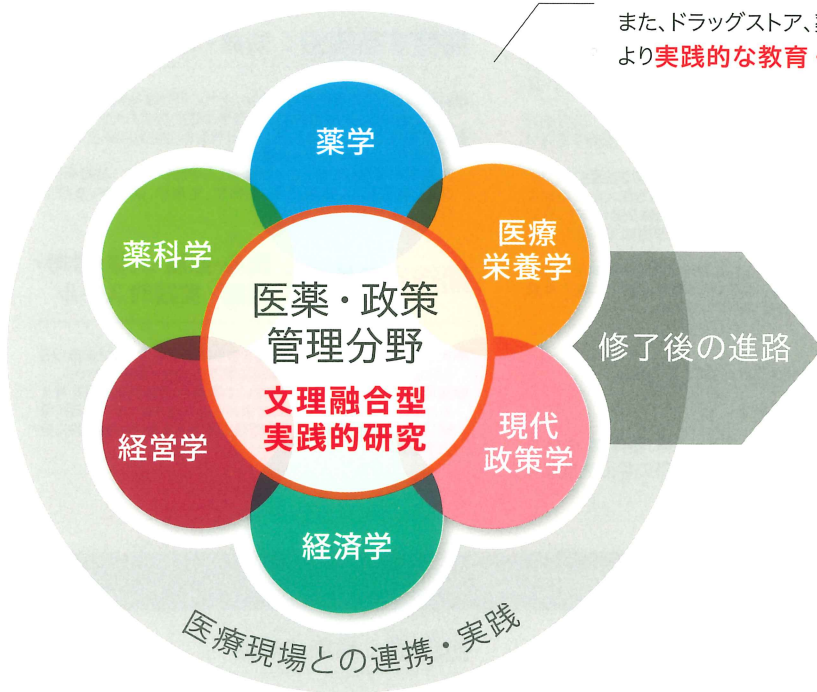


医薬・栄養政策管理分野が目指すパラダイムシフト

これまで		未来に向けて	
▶ローカル	▶治療・根治偏重	▶グローバル*	▶予防医療の充実
▶行政による誘導	▶キュア(CURE)	▶当事者の自律	▶ケア(CARE)
▶利益至上主義		▶パシエントファースト/シチズンファースト	

*グローバル(P.6参照)

学びのイメージ



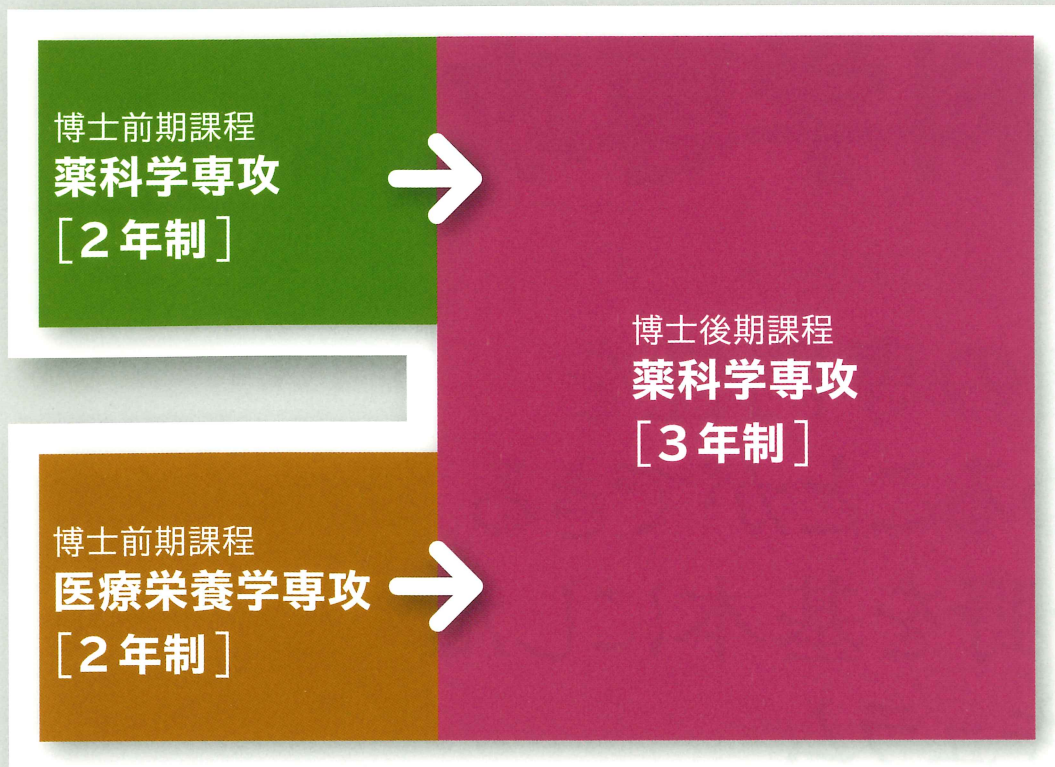
新分野は**文理融合型**であり、医療・薬学を専門とする教員と、経営・経済などの社会科学系の教員が協働で指導します。また、ドラッグストア、薬局、病院、行政など、実際の医療現場とも連携して、より**実践的な教育・研究**を展開します。

- ドラッグストア・薬局・製薬企業などで、経営・管理・人材育成のマネジメントを担う
- 病院・診療所・薬局などの医療施設で、経営・管理・人材育成などのマネジメントを担う
- 政府・自治体などの行政で、医療・医薬・栄養政策の立案・実施を目指す
- 医療政策に関連するシンクタンクで、調査研究・教育企画・政策提言などを行う
- 医療提供施設・ヘルスケア産業で地域住民の健康サポートの企画・実践を目指す
- 医薬・栄養政策管理の専門家を目指す
- 大学など教育研究機関の教員・研究者を目指す

特色

<p>国民のQOL(quality of life:生活の質)向上に貢献する人材を育成</p> <p>超高齢化が急速に進む中、国民の健康と生活の質を高めるため、医療に関わる情報や資源を有効活用し、医療(在宅・緩和ケアなど)・福祉・介護をリードする人材を育成します。</p>	<p>安全で安心な医療・介護のための多職種連携の方法を考察</p> <p>急速に高度化・複雑化する国民の医療ニーズに応えるためには、地域包括ケアシステムと多職種間の連携・協働が不可欠です。安全で安心な医療・福祉・介護を提供するためのAIやICTの活用を考えます。</p>	<p>ヘルスケア産業に新たな政策管理のイノベーションを</p> <p>国民の健康をサポートするうえで、ドラッグストアや薬局の役割は重要です。真のパシエントファースト、シチズンファーストを実現するために、既存概念を覆す政策管理のイノベーションとは何かを考えます。</p>
<p>データを活用し、エビデンスに基づく政策を立案</p> <p>既存の医療情報(ビッグデータなど)や調査に基づくデータを最大限活用することで、エビデンスに基づいた実現可能で質の高い政策の立案に役立ちます。</p>	<p>海外の医療状況にも目を向け、グローバルな視点で健康支援を実施</p> <p>海外主要国の現状について目を向け、高齢化や格差の問題・慢性疾患の増加・財政や社会保障制度などを把握したうえで、いま日本に求められる健康寿命を伸ばすための医薬・栄養政策を立案します。</p>	<p>健康関連のエビデンスを検証し、薬学発のシンクタンクへ</p> <p>薬剤師、管理栄養士に加えて経営・政策の現場に精通した関係者が協力して、調査研究を行い、その蓄積をもとにエビデンスを検証することで、薬学発のシンクタンクの設立を目指します。</p>

詳しくは 「医薬政策管理分野」→ P.7~P.10 「栄養政策管理分野」→ P.11~P.14



博士前期課程の概要

総合演習

(総合薬科学演習、総合医療栄養学演習)

博士前期課程の薬科学専攻と医療栄養学専攻では、薬学と医療栄養学にかかわる分野で、高度な問題解決能力を発揮できる高度な専門技術者・研究者を養成することを目的としています。そのためには修得する専門知識や技術に限られた狭い領域のものになることを防ぎ、同時に多くの状況に対応できるように、確固たる基礎知識を基盤として関連する広い分野で自分の専攻する専門以外の知識・技術も学ぶことが必要となります。これを実現するために、博士前期課程への入学直後の、修士論文研究を開始する前の時期に、自分の専攻内で自分の所属分野とは異なる分野の2つの講座で実習・演習を行う「総合演習」を必修科目として置いています。

共通特論

近年の生命科学の急速な進歩に対応できる専門職業人を育成するために、生命科学の全体像を学んでいわゆるジェネラリストとしての豊かな素養を涵養し、加えて薬学の学識を深化させる必要があります。そのために、薬科学専攻は先端薬科学特論、医療栄養学専攻は先端医療栄養学特論が必須科目として置かれています。また、グローバル化に対応するために最新の研究領域を英語で学ぶことができるAdvanced Drug Development特論、研究者として体得しておかなければいけない研究倫理について学ぶ論文作成法特論が置かれています。

修士論文研究における 形成的評価と総括的評価

修士論文研究は、原則として配属講座で実施しますが、主研究指導教員、副研究指導教員(2名以上)からなる指導チームによる集団指導制度を導入しています。副研究指導教員は配属講座以外の講座から選ばれます。この制度では、入学当初(概ね6月)に研究の目的と計画を指導チームに対して口頭発表し、妥当性の評価を受けます。1年後、研究結果を含めた進捗状況をインタビュー形式で報告し、(修士論文研究において)変更や追加等が必要な場合は、主研究指導教員、副研究指導教員を問わず(学生に研究・検討追加を)指導します。2年次11月に最終インタビュー(報告会)を実施して修士論文作成の妥当性を判断します。この一連の過程により形成的評価がなされます。さらに、公開の修士論文発表会に臨み、研究科全体による審査を受けることにより透明性の高い総括的評価がなされます。尚、医薬政策管理分野と栄養政策管理分野については、上記とは異なる指導方針のもとで形成的評価と総括的評価を実施します。

Keyword グローカルとは

グローバルとローカルを合わせた造語。世界的な視野で考え、身近な地域の視点で行動するという考え方。

薬科学専攻 [2年制]

各自の専門性を 深めることができる 4分野を基本にした カリキュラム

高度な専門職業人を育成するために、広い視野に立って各自の専門性を深めることができるようにカリキュラムを工夫しています。総合薬科学演習を全分野共通の必修科目とした上で、「基礎薬学分野」「化粧品機能分野」「食品栄養機能分野」「医薬政策管理分野」の4分野を基本に構成されています。履修科目の選択により、①安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、②生体障害因子から健康を守るための研究・情報提供、③安全性を考慮した化粧品の開発・研究・情報提供、④安全性を考慮した機能食品の開発・研究・情報提供、⑤質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供、といったことができるそれぞれ特徴ある高度専門職業人を養成します。さらに、学生自身が自らの目的に合わせ、カリキュラムを独自に設定することも可能にしています。たとえば、基礎研究を重視する履修科目を多くすることで「研究職・大学教員」を、応用研究を重視する履修科目を多くすることで「高い問題解決能力を有する技術者」を、医療と経営の文理融合研究を重視する履修科目を多くすることで「医薬政策管理の専門職」を目指すコースが設定できます。

4つの研究分野

基礎薬学 分野

医薬品化学、生薬学、生理学を基盤として、医薬品の探索、研究・開発、製造に係わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象とします。生活者の視点に立ってアンメット・メディカル・ニーズを満たす医薬品の探索、研究・開発、製造、情報提供を行うことができる能力を養成します。

化粧品機能 分野

皮膚科学を基盤として化粧品機能の解明に係わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象とします。生活者の視点に立って生活にゆとりを与え、かつ安全性を保障できる化粧品の研究・開発、製造、情報提供を行うことができる能力を養成します。

食品栄養機能 分野

機能性食品学と栄養生理学を基盤として、化学的視点から栄養生理学的視点から、食品の生体調節機能、疾病リスク低減効果、疾病治療効果の解明に係わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象とします。疾病予防や治療補助に有効な機能性食品の設計・開発ができる能力を養成します。

医薬政策管理 分野

質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するための効率的かつ戦略的な医薬政策管理運営手段に係わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象とします。ペイシェントファーストあるいはシチズンファーストに基づく、医薬政策管理業務をリード・実践できる能力を養成します。

講座等の概要

基礎薬学分野	生薬学講座	→	天然薬物の細胞傷害作用・抗酸化作用等生理活性に関する新規医薬品の創製研究
	生物有機化学講座	→	天然有機化合物をシードとした誘導体合成および生物活性における構造活性相関に関する研究
化粧品機能分野	薬粧品動態制御学講座	→	医薬品や化粧品有効成分の皮内動態解析および人工知能を用いた経皮・経口医薬品の製剤設計最適化に関する研究
	皮膚生理学講座	→	皮膚のセラミド量制御、メラニン生成調節および皮膚内酵素等に関する基礎的研究
食品栄養機能分野	機能性食品科学講座	→	機能性食品成分の継続的摂取の有効性評価および機能性食品素材の効率的産生方法の確立
	栄養生理学講座	→	脂質の栄養生理学的役割の解明と生活習慣病や加齢に伴う疾患の予防・治療効果の組織学的解析
医薬政策管理分野	医薬政策管理学	→	質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するための効率的かつ戦略的な医薬政策管理運営手段についての研究

カリキュラム

分野区分	授業科目	分野区分	授業科目
共通	総合薬科学演習	医薬政策管理分野	ヘルスケア産業経営管理特論
	先端薬科学特論		社会保障制度特論
	Advanced Drug Development 特論 (オールイングリッシュ)		医療マーケティング特論
基礎薬学分野	論文作成法特論		サプライチェーンマネジメント特論
	基礎薬学特論		食と健康特論
	天然物化学特論演習		緩和ケア特論
生体防御分野	生物有機化学特論演習		地域医療連携特論
	生体防御特論		医薬政策管理特論
化粧品機能分野	生体防御特論演習		医薬政策管理特論演習
	化粧品学特論		薬学リサーチインターンシップⅠ
	薬粧品動態制御学特論演習	薬学リサーチインターンシップⅡ	
食品栄養機能分野	皮膚生理学特論演習	薬学リサーチインターンシップⅢ	
	食品栄養機能特論	修士論文研究(修士論文指導を含む)	
	機能性食品科学特論演習		
	栄養生理学特論演習		

人材養成の目標と将来像

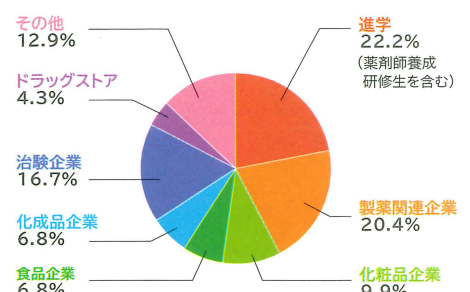
薬科学専攻では、専攻する分野によって次のような高度専門職業人の育成を目指します。

- ① 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供ができる人材
- ② 生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供ができる人材
- ③ 安全性を考慮した化粧品の開発・研究・情報提供ができる人材
- ④ 安全性を考慮した機能性食品の開発・研究・情報提供ができる人材
- ⑤ 質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供できる人材

【薬科学専攻修士の主な進路】

博士前期課程 薬科学専攻修士者は、さまざまな分野に進出し、高い評価を得ています。

●進学／城西大学大学院薬学研究科博士後期課程 ●製薬関連企業／池田模範堂、岩城製薬、科薬、救急薬品、三和化学研究所、ゼリア新薬工業、千寿製薬、中外製薬、ツムラ、帝國製薬、東光薬品工業、トクホン、鳥居薬品、ニプロパッチ、武州製薬、丸善製薬、マルホ、日本メジロフィジックス、全業工業、陽進堂、わかもと製薬、リードケミカル ●化粧品企業／アイ・ティ・オー、井田ラボトリーズ、エステートケミカル、香栄興業、コスモサイエンス、コスモビューティー、高研、サティス製薬、シャローム、東洋ビューティ、トキワ、ナリス化粧品、日本天然物研究所、マードウレックス、モルトバーネグループ、ヤマトビューティメイトグループ ●食品企業／赤城食品、遠藤製館、オムニカ、オルトメディコ、ソントン食品、ニッセーデリカ、武蔵野、森永製薬、わらべや日洋 ●化粧品企業／小池化学、ダイゾー、テクノプロ R&D ●治験企業／アクロネット、エスアルエル・メディサーチ、エシック、MIC メディカル、クインタイルズ、クレイス、サイトサポート・インスティテュート、CAC クロア、シーボック、シミック、新日本科学、DOT インターナショナル、日揮ファーマサービス、マイクロン、メディサイエンスプランニング、メディクロス、リニカル ●ドラッグストア／クリエイトエス・ディー、セガミドラッグス、セキ薬品、富士薬品、マツモトキヨシ ●その他／アグレックス、LSIメディエンス、岡安商店、科学飼料研究所、加速器分析研究所、グッドサイクルシステムズ、コーজনバイオ、サンリツ、センチュリーメディカル、戸田中央医科グループ、日本赤十字社血液センター、中野冷機、日本医科大学付属病院、ミモザ、埼玉県警、エア・ウォーター・ソル、TTC



講座紹介

基礎薬学分野

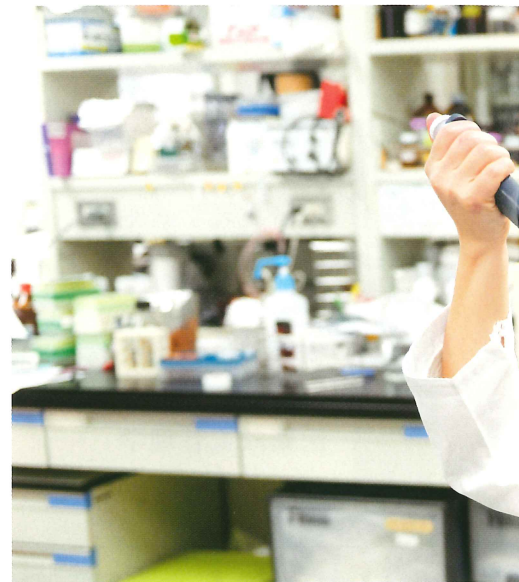
生薬学講座

医薬に使われる生薬等の天然薬物について、がん細胞傷害作用、破骨細胞増殖抑制作用、抗酸化作用等の生理活性を検討しながら活性成分を追究し、核磁気共鳴装置、質量分析装置等を使用した各種機器分析、合成研究により化学構造を決定するとともに、新規生理活性天然物（シード化合物）を素材とした創薬研究を行います。生活習慣病予防を目的とする和漢薬からの新しい機能性食品開発も研究対象となります。生薬・漢方に精通し、自然観察を重要視した高度な問題解決能力を有し、社会に要望される人材を育成します。



生物有機化学講座

現在使用されている医薬品の約半分は天然資源に由来する有機化合物です。天然にはいまだ知られていない生物活性を持つ有機化合物が数多く存在するものと考えられます。当講座では、天然有機化合物をシードとした誘導体合成および生物活性における構造活性相関を評価し、発症予防・治療に効果が期待できる機能性食品・医薬品の開発を目指します。これを通して、医薬品、機能性食品等の分野の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる、高度な知識と技能を修得した人材を育成します。



化粧品機能分野

薬粧品動態制御学講座

化粧品や外用医薬品製剤の有効性や安全性を確保するためには、有効成分や薬物のみならず添加原料についても、皮内動態や体内動態を把握し、目的に応じて評価することが重要です。また、日常生活で暴露される化学物質の安全性についても、これらの動態を評価することが必要です。当講座では、化粧品、医薬品、その他化学物質の適用（曝露）部位としての皮膚に注目し、適正使用に有用な情報を提供するとともに、人工知能を用いた経皮・経口医薬品の製剤設計最適化に関する研究を行い、新規製剤開発や新規素材安全性





食品栄養機能分野

機能性食品科学講座

当講座では、生活習慣病やエイジングに対して効果を示す食品、ハーブ類の機能性成分を分析し、動物実験、細胞実験などにより効果のメカニズムを解析しています。特に、食品成分がマウス骨髄中の体性幹細胞の分化能に及ぼす影響を調べることで、食生活の長期的影響を科学的に評価することに注力しています。一方で、植物による機能性成分の効率的生産法の確立を目指しています。有機化学、分析化学、生化学、分子生物学など多岐にわたる分野で研究することにより、高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

栄養生理学講座

脂質は日常摂取する栄養素の一つであり、細胞膜構成成分やエネルギー貯蔵体としてだけでなく、特異的な受容体や輸送担体を介して生体機能の発達・成長・維持を担っています。当講座では、このような脂質の多彩な機能を解明することで加齢による生体機能の変化や疾患の予防・治療に役立つ研究をしています。研究では、生体(個体)から分子までを扱い、さまざまな手法や機器を駆使しつつ、実験の手技や機器の使用法の修得だけでなく、生体を一つの有機体として捉えることのできる広い視野を持ち、高度な知識と技能を修得した人材を養成します。



評価法の確立に寄与できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

皮膚生理学講座

皮膚生理学講座は、化粧品が皮膚に投与された際に皮膚中で起こる現象を科学的に解明することを目指して研究・教育活動を行っています。新規保湿剤の提案やそのメカニズム解明、新規美白化合物の探索などについて研究を進め、また、研究は研究のためではなく、実学としての薬学を理解できるように学習以外の精神面や考え方の指導にも力を入れることで、幅広く、高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

医薬政策管理分野

医薬政策管理学

本分野では、超高齢化が急伸する我が国において質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するために、効率的かつ戦略的な管理運営を行う知識と技能を兼ね備えた医薬政策管理の専門職を養成します。特に、ヘルスケアサービスの中心になるドラッグス

トアや保険薬局で管理職を目指す社会人や病院の管理者あるいは行政の医療政策部門を目指す人材を対象として、ペイシェントファーストあるいはシチズンファーストに基づく、医薬政策管理業務をリード・実践できる広い視野を持つ高度な知識と技能を修得した人材を育成します。

医療栄養学専攻 [2年制]

組み合わせによって さまざまなコースを設定し 将来目標に合わせた カリキュラム

薬、食、毒の生体作用を、遺伝情報の発現制御（ゲノミクス）、タンパク質機能の発現制御（プロテオミクス）ならびに代謝物変動の制御（メタボロミクス）の情報に基づいて、物質によって引き起こされるものとして同列に議論することができる人材を育成することに主眼をおいています。また、総合医療栄養学演習を全ての分野に共通の必修科目とした上で、それぞれ履修科目の選択により、「医療の中で活躍できる」など3つのポリシー（P.3参照）に則したカリキュラムを設置しています。さらに、柔軟な履修システムも用意しました。つまり、将来活躍できる分野を想定し、そのために必要な知識・技術を身につけるためのカリキュラムを履修科目の組み合わせによって大学院生自身が独自に設定することが可能となっています。たとえば、提携病院における実務実習を多く選択することにより医療スタッフとしての認識が芽生える実務教育型コース、基礎研究を重視する履修科目を多く選択することによって研究職・大学教員を目指すコース、医療と経営の文理融合研究を重視する履修科目を多くすることで「栄養政策管理の専門職」を目指すコースの設定が実現可能です。

3つの研究分野

医療栄養 分野

実務教育型講義を展開し、さらに問題志向型解決、チーム医療そして患者心理に主眼を置いた内容の演習と実習を設定しています。臨床薬学や臨床医学の知識と技術を修得し、薬と食品の相互作用を念頭に置いた高度な栄養管理、栄養指導ができる人材の養成を目指します。

食毒性 分野

食品を生理学的、薬力学的、毒性学的に評価し、これらがヒト恒常性に与える影響を分子のレベルで理解することを目的とします。ヒト遺伝情報から派生するタンパク質の機能発現を基盤として、疾病の発症や栄養応答性の違いなど、ニュートリゲノミクスから得られる情報を活用することで、食毒性を考慮した高度な栄養指導や新規の機能性食品の開発を行うことができる人材の養成を目指します。

栄養政策管理 分野

質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するための効率的かつ戦略的な医薬政策管理運営手段に係わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象とします。（これまでの診療報酬偏重型から）ペイシエントファーストあるいはシチズンファーストに基づく、栄養政策管理業務をリード・実践できる人材の養成を目指します。

講座の概要

医療栄養分野	薬物療法学講座	→	医薬品と食品や栄養状態との相互作用およびメディカルハーブの機能性および医薬品との相互作用の解析
	臨床栄養学講座	→	食品・嗜好品に含まれる栄養素の肝臓、腎臓、内臓脂肪に与える影響の評価研究
	病態解析学講座	→	人体および地域社会の構造・機能破綻に関する予防医学的な評価研究
	予防栄養学講座	→	地域や社会集団の健康の保持・増進と生活習慣病やメタボリック症候群などの疾患の予防・改善研究
	栄養教育学講座	→	日本およびアジア地域におけるハラル食品の流通と利用実態の解明
食毒性分野	食毒性学講座	→	治療補助効果のある食事設計構築や、機能性食品開発とその医薬品との相互作用における食毒性的評価研究
	食品機能学講座	→	骨格系疾患の治療・予防に関する食育のためのエビデンスに関する研究
	生体防御学講座	→	食毒性による身体ストレス度評価の確立と食毒性を回避するための食品と医薬品の評価研究
	分子栄養学講座	→	代謝調節に及ぼす栄養状態と食品成分・栄養素の機能ならびに食毒性に関する研究
	有機薬化学講座	→	糖鎖の生理機能の解明や医薬品・食品への応用を目的とした糖鎖の構築法および機能評価法の開発
栄養政策管理分野	栄養政策管理学	→	質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するための効率的かつ戦略的な栄養政策管理運営手段についての研究

カリキュラム

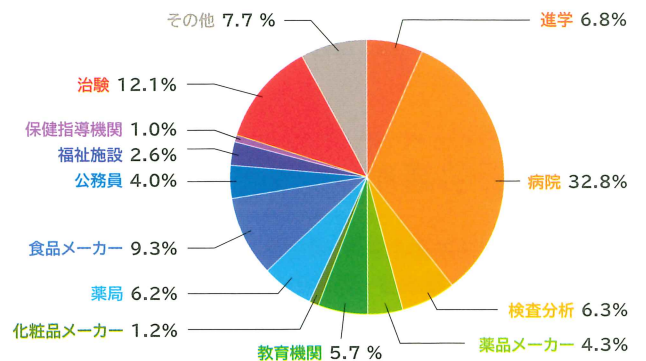
分野区分	授業科目	分野区分	授業科目
共通	先端医療栄養学特論	食毒性分野	栄養機能解析学特論
	総合医療栄養学演習		栄養機能解析学特論演習
	医療栄養演習Ⅰ		生体機能解析学特論
	医療栄養演習Ⅱ		生体機能解析学特論演習
	Advanced Drug Development 特論 (オールイングリッシュ)		食毒性制御解析学特論
	論文作成法特論		食毒性制御解析学特論演習
	臨床栄養解析学特論		チーム医療・統計学特論
	臨床栄養解析学特論演習		ヘルスケア産業経営管理特論
	病態制御解析学特論		社会保障制度特論
	病態制御解析学特論演習		医療マーケティング特論
医療栄養分野	薬物療法学特論	栄養政策管理分野	サプライチェーンマネジメント特論
	薬物療法学特論演習		食と健康特論
	予防栄養解析学特論		緩和ケア特論
	予防栄養解析学特論演習		地域医療連携特論
	病院・保険薬局実習		栄養政策管理特論
			栄養政策管理特論演習
			薬学リサーチインターンシップⅠ
			薬学リサーチインターンシップⅡ
			薬学リサーチインターンシップⅢ
			修士論文研究(修士論文指導を含む)

人材養成の目標と将来像

[医療栄養学専攻修了生の主な進路]

博士前期課程 医療栄養学専攻修了者は、さまざまな分野に進出し、高い評価を得ています。

●進学/城西大学大学院 ●病院/地域医療機能推進機構、東海大学医学部病院、帝京大学医学部病院、信州大学医学部病院、星総合病院、武蔵野台病院、千葉大学医学部病院、東京大学医学部病院、福島県立医大病院、東北大学病院、群馬中央総合病院、浜松赤十字病院、神奈川県総合リハビリテーション事業団、前橋赤十字病院、埼玉県総合リハビリテーションセンター、自治医科大学病院、水戸赤十字病院、国立がんセンター、国立病院機構、東京慈恵会医科大学病院 ●検査分析/環境総合研究所、シバヤギ、ハイテック ●薬品メーカー/全薬工業、栄研化学、河合製薬、日本臓器製薬、味の素ファルマ、日水製薬、スノーデン、塩野義製薬、クラシエ製薬、高田製薬、ゼリア新薬工業 ●教育機関/城西大学教員、帝京平成大学教員、聖徳大学教員、神奈川工科大学教員、東京栄養食糧専門学校教員、金城学院大学教員 ●化粧品メーカー/アビ、シャローム、ローレル ●薬局/ココカラファインヘルスケア、日生薬局、富士薬品、フォーラル、クオール、薬樹、日本調剤 ●食品メーカー/菊池食品工業、SB食品、ドンク、新田ゼラチン、相生産業、ポーソー油脂、やまひら、UCC上島珈琲、丸大食品、フレンテ ●公務員/厚生労働省、東京都、栃木県、富山県、埼玉県、川崎市 ●福祉施設/まきば園、ふれあいの郷、あけお ●保健指導機関/健康管理センター ●治験/パレクセルインターナショナル、新日本科学、メディクロス、エシック、ACメディカル、アスクレップ、フェーズオン、サイトサポート・インスティテュート ●その他(含未定)/城西大学研究生、生活協同組合コープ、すかいらーく、ファミリーマート、ワタミ手づくりマーチャングイジン



講座紹介

医療栄養分野

薬物療法学講座

疾病治療における医薬品と食事・食品（食品成分）・栄養状態の相互作用を明らかにし、発現機序を解明するとともに安全で有効な薬物療法の確立を目指します。また、健康食品の素材として汎用され、セルフメディケーションへの応用が期待されるメディカルハーブの有効かつ安全使用の観点から、メディカルハーブの新たな機能性の解析及び医薬品との相互作用について検討します。これらを通して薬学分野と食品・栄養分野の学際領域 (Pharma-Nutrition*分野) の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

臨床栄養学講座

健常者・傷病者の良好な栄養状態を維持するうえで必須な栄養素の作用や最適な身体状態を明らかにして、メタボリックシンドロームなどの代謝性疾患の発生機序を解明するとともに、発症予防と治療法の確立を目指します。特に、食品に含まれる栄養素が肝臓・腎臓・内臓脂肪に与える影響を解析します。また、内臓肥満と栄養状態との関連を検討し、代謝異常や臓器障害の予防法や治療法につなげます。これらを通して、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

病態解析学講座

各種病態、特に運動器の疲労、障害および衰えに対する栄養成分・医薬品成分の保護効果を酸化ストレスや一酸化窒素 (NO) を軸に、生理学的、生化学的お

よび分子生物学的な実験的手法により検討します。また、地域保健の観点から各種健康指標による地域社会の評価、集団へのスポーツ栄養学的介入の効果を疫学的な手法により検討します。これらを通して薬学分野と食品・栄養分野の学際領域 (Pharma-Nutrition*分野) の認識を深め、疾病の治療や予防、食事指導等、健康維持に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

予防栄養学講座

地域や社会集団の健康・栄養問題に対し、公衆栄養マネジメントに基づき、他職種・他分野との協働や地域連携を含む栄養支援システムの構築を目指します。また、肥満、生活習慣病、メタボリックシンドロームなどの病態発症・進展機構やライフステージを考慮した効果的な予防や増悪低減を指標とした機能性素材を探索する基礎研究を行います。これらを通して人々の健康の保持・増進、QOLの向上に貢献できる高度な知識と技術を習得した人材を養成します。

栄養教育学講座

日本を含むアジア地域の食および生活習慣は多岐にわたっており、人々の健康増進に貢献するための栄養教育においても、一般の食品に加えて健康食品・機能性食品やハラル食品等に関する情報提供が必要です。日本のみならず、近年著しい経済成長を遂げている東南アジアを対象地域とし、健康食品ならびにハラル食品の使用実態とニーズに関する調査を実施します。これらを通じて調査研究法、統計処理法などのデータ解析に関する高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

食毒性分野

食毒性学講座

栄養素や食品成分について、生活習慣病などの慢性疾患の発症と増悪へ及ぼす効果（食毒性）、それらの発症の抑制、生体の恒常性を維持し健康増進に寄与する効果（機能性）について、生化学的・分子生物学的手法、調理科学的手法の両面から研究することで疾病予防、治療補助的視野に立った食事設計と機能性食品の開発を目標とします。これらを通して、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域 (Pharma-Nutrition*分野) の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、健康管理に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

食品機能学講座

食品や食品成分の生体機能修飾作用の解明ならびに薬物療法と併用する食事療法に有用な機能性食品の開発・設計、特に口コモティブシンドロームを中心に加齢に伴う疾病の予防・治療に有効な食品・医薬品の開発・設計を行います。また、話題となっている「健康食品」等の効果・食毒性の評価について、教育研究を推進します。これらを通して、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域 (Pharma-Nutrition*分野) の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

生体防御学講座

生体の恒常性を維持するうえで必須な食品成分の負の作用（食毒性）を明らかにして、生活習慣病の発症機序を解明し、発症予防と治療法の確立を目指します。特に、糖尿病態時の薬物の吸収・代謝に係る腸管粘膜系と中枢神経系の機

栄養政策管理分野

能変化を解析し、疾病の発症予防や治療に効果が期待できる食品・医薬品の開発につなげます。これらを通して、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*分野)の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

分子栄養学講座

代謝調節に影響を及ぼす栄養状態や食品成分・栄養素の有益な作用(機能)と有害作用(食毒性)を解明することにより、生活習慣病の発症予防と治療法の確立を目指します。特に、糖・脂質代謝と骨代謝に影響を及ぼす脂肪酸と治療薬との相互作用について解析し、栄養管理や食育のためのエビデンスとして提供します。これらを通して、Pharma-Nutrition*分野の認識を深め、広い視野に立った学識の涵養を図るとともに、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

有機薬化学講座

細胞表層上の糖鎖は、生命体の恒常性維持や疾病の発症、細菌の感染などに密接に関わっています。しかし、糖鎖は天然からは微量しか得られないため、糖鎖を化学的に効率よく構築し、さらにその糖鎖をもとにした人工プローブを設計・合成することで、より深い生命現象を探求することができます。当講座では効率性が高く、汎用性のある糖鎖構築法を開発し、創薬につながる機能性糖鎖誘導体の探索研究を推進します。これらの研究を通じて、化学と生物学の素養を持ち合わせ、医薬品や食品開発に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

栄養政策管理学

本分野では、超高齢化が急伸する我が国において質の高い医療、福祉、在宅・介護および健康サービスを提供するために、効率的かつ戦略的な管理運営を行う知識と技能を兼ね備えた栄養政策管理の専門職を養成します。特に、ヘルスケアサービスの中心になるドラッグストアや保険薬局で管理職を

目指す社会人や病院の管理者あるいは行政の医療政策部門を目指す人材、さらにはフリーランスの栄養士として独立・起業を目指す人材を対象として、バイシエントファーストあるいはシチズンファーストに基づく、栄養政策管理業務をリード・実践できる広い視野を持つ高度な知識と技能を修得した人材を育成します。

*Pharma-Nutrition (P.22 参照)



薬学専攻 [4年制]

高度な専門職業人 育成を目標とした 柔軟性の高いカリキュラム

生命科学の全体像を学んだ薬学分野のジェネラリストとして、またスペシャリストとして、豊かな学識と高い専門性を養うことができるよう、カリキュラムが組まれています。先端生命科学特論、先端医療薬学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論を共通の必修科目とした上で、「薬探索領域」「生体防御領域」「医療領域」の3領域を基本に構成されたカリキュラムは、履修科目の選択により、①安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、②生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、③医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供などができる、高度な専門職業人の育成を目標としたものになっています。また、この3つは、相互に密接なつながりを持ちながら独立していますが、標準からはずれた履修カリキュラムも可能とする柔軟な履修システムを取っていますから、履修科目内容の組み合わせによって、将来活躍できる分野を想定し、そのために必要な学識を身につけるためのカリキュラムを学生自身が独自にコース設定することも可能です。たとえば、基礎的研究を重視する履修科目を多くすることによって「研究職・大学教員」を目指したり、臨床に関わる内容を重視する履修科目を多くすることによって高い問題解決能力を有する薬剤師を目指すことも可能です。

3つの研究領域

薬探索領域

医薬品化学、薬品物理化学を基盤として、医薬品の探索、研究・開発に関わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象としています。ここで得られる情報を活用することによって、生活者の視点に立って安全性を保障できる医療の提供、医薬品の探索、研究・開発・情報提供を行うことができる能力の養成を目指しています。

生体防御領域

衛生化学、薬品作用学を基盤として、生体の恒常性を維持する生体防御機構の解明に関わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象としています。偏った食品成分摂取、化学物質（医薬品・毒物・化粧品など）への曝露等による健康障害の未然防止に関する研究・情報提供を行うことができる能力の養成を目指しています。

医療領域

臨床薬理学、病原微生物学、生体分析化学、薬剤作用解析学、医薬品安全性学、薬剤学、製剤学、病院薬剤学を基盤として、医薬関連情報からエビデンスを引き出して、患者個々の疾病成因の解析および適正な薬物治療の選択・評価・開発・情報提供を行うことができる能力の養成を目指しています。



講座の概要

薬探索領域	医薬品化学講座	→	薬物と標的タンパク質の分子間相互作用の解析および構造活性相関に関する研究
	薬品物理化学講座	→	薬物と生体内成分に対する分子センサーの研究ならびに薬物送達システムの開発
生体防御領域	衛生化学講座	→	脂質代謝異常の発症機構や生体異物の毒性発現機構の解明と生体障害の軽減法の開発
	薬品作用学講座	→	生活習慣病における脳機能障害メカニズムの解明と予防・改善に関する研究
医療領域	臨床薬理学講座	→	医薬品開発における薬物の有効性と安全性に関する薬理学的研究
	病原微生物学講座	→	細菌感染防御のための表層抗原の応用と新規抗菌物質の検索研究
	生体分析化学講座	→	生体成分の検出・同定ならびに該当する生体成分の分析法開発と生理的機能の解析研究
	生理学講座	→	生活習慣病の成因および病態の解明とその予防法や治療法の開発
	薬剤作用解析学講座	→	薬剤作用を修飾する諸因子の解析および医薬情報のデータマイニング研究
	医薬品安全性学講座	→	安全で有効な栄養・薬物治療を目的とした投与方法・治療管理システムに関する研究
	薬剤学講座	→	薬物や生理活性物質の吸収制御を目的とした製剤および投与方法開発に関する研究
	製剤学講座	→	薬物送達システムの開発に関する研究
	病院薬剤学講座	→	患者への安全かつ適正な薬剤投与システムの開発

カリキュラム

分野区分	授業科目	分野区分	授業科目
共通	先端生命科学特論	医療領域	生物薬学特論
	先端医療薬学特論		生物薬学特論演習
	レギュラトリーサイエンス特論		薬物治療学特論
	ドライリサーチ特論		薬物治療学特論演習
	Advanced Drug Development 特論 (オールイングリッシュ)		薬剤・製剤学特論
	論文作成法特論		薬剤・製剤学特論演習
	化粧品機能特論		臨床薬理学演習
	食品機能特論		病原微生物学演習
	薬探索特論		生体分析化学演習
	薬探索特論演習		生理学演習
薬探索領域	医薬品化学演習	薬剤作用解析学演習	
	物理化学演習	医薬品安全性学演習	
	生体防御特論	薬剤学演習	
生体防御領域	生体防御特論演習	製剤学演習	
	衛生化学演習	病院薬剤学演習	
	薬品作用学演習	薬学リサーチインターンシップ I	
		薬学リサーチインターンシップ II	
		薬学リサーチインターンシップ III	
		博士論文研究(博士論文指導を含む)	

人材養成の目標と将来像

薬学専攻は、下記の素養を身につけた
高度な研究者・技術者の育成を目指します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、国際化への対応が求められる地域社会においてリーダーとして活躍できる能力
- 専門性の極めて高い能力と豊かな学識を有する高度医療職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や医療倫理にかかわる能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用、遺伝情報の発現・制御(ゲノミクス)、タンパク質の機能発現・制御(プロテオミクス)、代謝物の変動の制御(メタボロミクス)、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品の開発・研究・情報提供、生体障害因子から健康を衛るための研究・情報提供、医薬関連情報からエビデンスを引き出すための研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、医療の進歩や種々要因のグローバルな変化が地域社会にどのような帰結をもたらすかを評価し議論できる能力

修了後の進路 ()内は、H27、H28実績

- ▶ 大学等の教員・研究者
(鈴鹿医療科学大学薬学部助手、米国立衛生研究所研究員、
富山大学医学部研究員、昭和薬科大学特任助教、城西大学薬学部助手)
- ▶ 製薬会社における医薬品の開発・研究に携わる研究者・技術者
(杏林製薬合成第一研究所)
- ▶ 化学会社における化学品の安全性に携わる研究者・技術者
(純正化学開発研究部)
- ▶ 食品会社における機能性食品の開発・研究に携わる研究者・技術者
- ▶ 保健・医療行政等でレギュラトリーサイエンスに携わる専門家
- ▶ 病院等の医療機関で高度の医療業務または研究に携わる薬剤師
(ユニコ調剤薬局)

講座紹介

薬探索領域

医薬品化学講座

医薬品をはじめとする生物活性物質の多くは有機化合物であり、それらは薬効発現に必要な化学構造（基本骨格と官能基）を備えています。医薬品化学は、有機化学をベースとして、医薬品の化学構造と薬理作用の関係を明らかにする総合科学的な分野です。当講座では、自らデザインした化合物を合成し、構造活性相関を解析することによって、酵素阻害作用を有する医薬品リード化合物の開発を目指します。また、これらの研究を通じて、化学構造から医薬品を理解し創製するきわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

薬品物理化学講座

薬物の物理化学的性質を明らかにし、薬物と生体内成分もしくは各種医療材料間の相互作用について、各種機器分析装置を用いて解析し、薬物の適用方法の最適化、新規医療材料の設計、高機能性製剤の開発などを行います。また、医薬品の放出や吸収の過程を物理化学的視点から評価し、その結果を医薬品の適正使用に利用します。そのため必要となるきわめて高度な知識と実験技能を有し、さらには実験結果の深い理解とその成果をより高度な研究に発展させることに、つねに真摯に取り組む態度を備えた研究者を養成します。



生体防御領域

衛生化学講座

生体異物（薬物・毒物）や食品成分などのなかから、ヒトを疾病状態に落とし入れる可能性のある因子（生体障害因子）を特定してその障害機構を解明するとともに、生体側の因子や食物因子による干渉機構を解明し、生体障害の防御を目指します。具体的には、脂質代謝異常の発症機構や生体異物の毒性発現機構を解析し、これを修飾する生体異物や食品成分を探索します。これらの過程を通じて、衛生化学の学識を深めるとともに、疾病や障害の予防・軽減に貢献できるきわめて高度な知識と技能を習得した人材を養成します。

薬品作用学講座

生体と化学物質との相互作用を、薬理学を応用した種々の研究方法により、総合的に検証し、疾病の発症メカニズムの解明と薬物治療の確立を目指します。特に、虚血性脳機能障害やストレスによる情動調節異常の病態解明を行うとともに、天然物を利用した創薬を目指します。この過程を通じて、薬学分野における高度な研究能力を養うとともに、疾病の予防・治療を通じて国民の健康の維持に貢献できる、専門性のきわめて高い能力と豊かな学識を有する人材を養成します。

医療領域

臨床薬理学講座

肝臓は、約70%を外科的に切除しても自動的に再生する臓器です。当講座では、肝実質細胞の初代培養実験系を用いて、成長因子、サイトカイン、およびビタミンなどによる肝実質細胞増殖促進作用の仕組みを研究し、肝再生機構の解明を目指しています。また、*in vitro*での知見が*in vitro*でも観察されるか否かについても研究しています。これらの研究により、肝庇護薬をはじめとする医薬品候補物質の薬理作用を評価し、薬物治療や医薬品開発の分野で貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

病原微生物学講座

感染症起因微生物、特に病原細菌の生態、感染予防、診断、さらには治療にいたるまで幅広い研究領域を構築しています。特に、菌体表層成分の免疫化学的解析とワクチンへの応用を目的とした研究が主軸となります。また、感染症治療において大きな障壁となっている薬剤耐性菌の疫学的解析、薬剤耐性菌起因感染症の制御を目的に、新規消毒剤の開発と耐性菌の誘導を伴わない治療法の展開を追究します。これらを通じて、薬学領域にとどまらず多様な角度から感染症制御に貢献できる、きわめて高度な能力を有する研究者を養成します。

生体分析化学講座

生命維持に欠かせない生体内低分子化合物、タンパク質、遺伝子等の生理化学的、生化学的役割の解明を目的として、質量分析法、電気泳動法、高速液体クロマトグラフィー分析などを利用し、新しい分析方法を開発します。さらに、食品に含まれる可能性の高い生体内成

分と生活習慣病など疾患の発症機序との関連性を解析するとともに、疾患予防法および治療法を提案し、その構築を目指します。これらを通して、薬学のみならず、医学、農学、理学の枠を超えた、きわめて高度で幅広い知識と技術を修得した研究者を養成します。

生理学講座

生活習慣病に伴う合併症の予防と治療における薬物および栄養素の役割を検討し、生活習慣病対策として有効性の高い予防・治療戦略を確立することを目的とします。これらの研究を総合的に効率よく進めるため、細胞実験、動物実験および臨床研究をバランスよく取り入れ、薬物および栄養素の基礎的作用機序から生理的作用まで幅広く追究しています。また、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域 (Pharma-Nutrition*分野) における認識を深め、疾病の予防・治療に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を育成します。

薬剤作用解析学講座

大規模データベースやインターネットリサーチを利用して収集した医薬情報、あるいは、行政や臨床現場の医薬情報をデータマイニング (DM) することで、薬剤の作用・副作用を修飾するシグナルを見つけ出します。さらに、このシグナルがどのようなメカニズムで作用を修飾するのかを、基礎研究で検証します。シグナルの検出に端を発し、これを基礎研究で検証する組み合わせはリバーストランスレーショナルリサーチ (rTR) として、期待される領域です。DMおよびrTRの実践を可能とする人材を養成します。

医薬品安全性学講座

安全で有効な栄養・薬物治療を行うために、食品の機能や既存医薬品の物理化学的・薬理学的性質を評価し直すことにより、さらに安全で有効な治療管理システムや製剤を創出することを目指し

ます。特に血糖コントロールを改善し酸化ストレスを軽減するための食品の組み合わせ、加工方法、摂取方法に関するエビデンスの蓄積、また既存医薬品の溶解性や安定性を改善するための製剤的工夫の探索により、食品や医薬品の安全で有効な利用方法を医療現場に提供できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

薬剤学講座

薬物の治療効果を最大限に引き出すシステムを薬剤学的手法により構築することを大きな目的とし、主に投与方法・剤形デザインの合理的設計を目指します。特に高機能を付与した製剤の設計、薬物や生理活性物質の体内動態に影響を与える食物・天然物由来成分の探索・応用、薬物の皮膚内動態を最適化する皮膚投与設計、さらに緩和医療分野における薬剤学的な貢献など、広い視野からのアプローチを課題としています。これらシステム構築の具現を通して、医療に貢献しうるきわめて高度な知識・技能を修得した研究者を養成します。

製剤学講座

個々の患者に適正な薬物治療を行うためには、疾患の治療目的に合わせ、効果的かつ安全な薬物の生体内送達きわめて重要となります。当講座では、疾患の病態生理と薬物治療に必要な情報に基づき、経粘膜および経皮薬物送達システムを開発します。システム開発には、放出制御や標的化のための剤形工夫や投与方法、吸収の改善と機構論を検討します。これらを通して、広い視野に立った基礎的素養が醸成され、医学・薬学分野ばかりでなく、食品・栄養分野にも貢献できるきわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

病院薬剤学講座

医療現場では、患者、医療従事者、および介護者のニーズに対応できる医薬品

が求められています。当講座では、医師などの医療従事者でなければ投与できない薬剤に代わる、新たな投与方法確立や製剤開発を目指した速やかなてんかん発作抑制のための製剤開発、および物理的手法を利用した経皮薬物送達について研究しています。さらに、高齢者に対して臨床的ニーズの高い爪白癬治療製剤や口腔粘膜付着型製剤について研究し、これらを通じて医療に関わるきわめて高度な知識を身につけ、医療現場の薬学的課題に対する高度な研究能力を養成します。

*Pharma-Nutrition (P.22 参照)



薬科学専攻 [3年制]

ジェネラリストかつ スペシャリストを 養成するカリキュラム

生命科学の全体像を学んだ薬科学分野のジェネラリストとして、またスペシャリストとして、豊かな学識と高い専門性を養うことができるよう、カリキュラムに配慮がなされています。高度先端薬科学特論、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論を共通の必修科目とした上で、「医薬品・化粧品機能分野」「基礎薬学分野」「食品機能分野」「食毒性分野」の4分野を基本として構成されています。履修科目の選択により、①安全性を考慮した医薬品・化粧品分野の開発・研究・製造・情報提供、②安全性を考慮した機能食品の開発・研究・製造・情報提供、③食品や食品の組み合わせ、医薬品との組み合わせを生理学的・薬動学的・毒性学的評価についての研究・情報提供などができる、高度な専門職業人を育成します。前期課程薬科学専攻・医療栄養学専攻の講義・実験科目の履修に基づき、基礎的研究を重視する履修科目を多くすることによって、各分野に特化した「研究職・大学教員」を目指したり、レギュラトリーサイエンス特論およびドライリサーチ特論の履修によって、社会問題を浮き彫りにして応用研究へつなげる高い問題解決能力を養うなど、さまざまなコース設定が実現できます。そのため、基礎分野から応用分野まで対応できる教員を配置しています。

4つの研究分野

医薬品
・
化粧品機能分野

化粧品動態制御学、皮膚生理学を基盤として、医薬品と化粧品機能の解明に関わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象としています。これらの情報を活用することによって、生活者の視点に立って生活にゆとりを与え、かつ安全性を保障できる医薬品・化粧品の研究・開発、製造、情報提供を行うことができる能力の養成を目指しています。

基礎薬学分野

生物有機化学を基盤として、医薬品・食品の安全性を確保したうえで開発・研究するための方法論について学び、それらを適用する際の問題点や将来あるべき開発・研究の方向性について考えられるまでを研究・教育の対象としています。これらの情報を活用することによって、医薬品・食品の開発・研究・製造に携わることができる能力の養成を目指しています。

食品機能分野

食品機能学と機能性食品科学を基盤として、化学的視点と生理学的視点から、食品の生体調節機能、疾病リスク低減効果、疾病治療効果の解明に関わる基礎から応用の領域までを研究・教育の対象としています。これらの情報を活用することによって、疾病予防や治療補助に有効な機能性食品の設計・開発・製造ができる能力の養成を目指しています。

食毒性分野

生体防御学、臨床栄養学、病態解析学、薬物療法学、分子栄養学、有機薬化学、食毒性学を基盤として、食品、食品の組み合わせ、食品と医薬品の組み合わせを生理学的、薬動学的、毒性学的に評価する基礎から応用の領域までを研究・教育の対象としています。これらの情報を活用することによって、疾病の発症や栄養機能応答性の違いなどの情報を発信できる能力を目指しています。

講座の概要

医薬品・ 化粧品機能分野	化粧品動態制御学講座	→ 医薬品や化粧品有効成分の皮内動態解析および人工知能を用いた経皮・経口医薬品の製剤設計最適化に関する研究
	皮膚生理学講座	→ 皮膚疾患の解析や化粧品開発を目的とした皮膚の脂質と構造に関する研究
	生薬学講座	→ 天然薬物の細胞傷害作用・抗酸化作用等生理活性に関する新規医薬品の創製研究
	栄養生理学講座	→ 脂質の栄養生理学的役割の解明と生活習慣病や加齢に伴う疾患の予防・治療効果の組織学的解析
基礎 薬学	生物有機化学講座	→ 天然有機化合物をシードとした誘導体合成および生物活性における構造活性相関に関する研究
食品機能 分野	食品機能学講座	→ 食品・食品成分の生体機能修飾作用の解明および評価疾病予防・治療補助効果を有する食品の設計と評価研究
	機能性食品科学講座	→ 機能性食品成分の継続的摂取の有効性評価および効率的産生方法の確立
食毒性 分野	生体防御学講座	→ 食毒性に起因する身体の酸化ストレス度評価ならびに食毒性回避のための食品・医薬品評価研究
	有機薬化学講座	→ 糖鎖の生理機能の解明や医薬品・食品への応用を目的とした糖鎖の構築法及び機能評価法の開発
	病態解析学講座	→ 人体および地域社会の構造・機能破綻に関する予防医学的な評価研究
	薬物療法学講座	→ 医薬品と食品や栄養状態との相互作用およびメディカルハーブの機能性および医薬品との相互作用の解析
	分子栄養学講座	→ 脂質代謝・骨代謝に及ぼす多価不飽和脂肪酸・フラボノイドの作用と分子機構研究
	食毒性学講座	→ 食品成分とその有害作用（食毒性）評価および食毒性を制御する食品構成・薬物療法の検討
	臨床栄養学講座	→ 生活習慣病に対する各種栄養素の影響とメタボリック症候群の効果的な栄養治療の確立研究

カリキュラム

分野区分	授業科目	分野区分	授業科目
共通	高度先端薬科学特論	食毒性分野	食毒性特論演習Ⅰ
	レギュラトリーサイエンス特論		食毒性特論演習Ⅱ
	ドライリサーチ特論		食毒性特論演習Ⅲ
	先端医療薬科学特論		食毒性特論演習Ⅳ
	Advanced Drug Development 特論 (オールイングリッシュ)		食毒性特論演習Ⅴ
	論文作成法特論		食毒性特論演習Ⅵ
医薬品・ 化粧品機能分野	医薬品・化粧品機能特論演習Ⅰ		食毒性特論演習Ⅶ
	医薬品・化粧品機能特論演習Ⅱ	薬学リサーチインターンシップⅠ	
基礎薬学分野	基礎薬学特論演習Ⅰ	薬学リサーチインターンシップⅡ	
	基礎薬学特論演習Ⅱ	薬学リサーチインターンシップⅢ	
食品機能分野	食品機能特論演習Ⅰ	博士論文研究(博士論文指導を含む)	
	食品機能特論演習Ⅱ		
	食品機能特論演習Ⅲ		

人材養成の目標と将来像

薬科学専攻は、下記いずれかの素養を身につけた
高度な研究者・技術者の育成を目指します。

- ①安全性を考慮した医薬品・化粧品の開発・研究・製造・情報提供ができる
- ②安全性を考慮した機能食品の開発・研究・製造・情報提供ができる
- ③食品と食品の組み合わせ、食品と医薬品の組み合わせを
生理学的、薬動学的、毒性的に評価する研究・情報提供ができる

修了後の進路

多くの企業、研究機関、病院等から有望な人材として期待されています。

- ▶ 大学等の教員・研究者
- ▶ 製薬会社における医薬品・病態食の開発・研究に携わる研究者・技術者
- ▶ 化粧品会社における化学品の安全性に携わる研究者・技術者
- ▶ 食品会社における機能性食品・病態食の
開発・研究・製造に携わる研究者・技術者
- ▶ 保健・医療行政等でレギュラトリーサイエンスに携わる専門家

講座紹介

医薬品・化粧品機能分野

薬粧品動態制御学講座

化粧品や外用医薬品製剤の有効性や安全性を確保するためには、有効成分や薬物、さらに添加原料についても、皮内・体内動態を把握し、目的に応じた製剤の設計・評価が重要であるし、日常生活で暴露される化学物質の動態を把握し、制御することも必要です。当講座では、化粧品、医薬品、化学物質の適用(暴露)部位としての皮膚に注目し、物質の適正使用に有用な情報を提供し、さらに、新規製剤の開発や新規素材の安全性評価法の確立に寄与できる、きわめて高度な知識と技能を修得し、指導者となる研究者を養成します。

皮膚生理学講座

皮膚生理学講座は、化粧品が皮膚に投与された際に皮膚中で起こる現象を科学的に解明することを目指して研究・教育活動を行っています。新規保湿剤の提案やそのメカニズム解明、新規美白化合物の探索などについて研究を進めており、また、研究は研究のためではなく、実学としての薬学を理解できるように学習以外の精神面や考え方の指導にも力を入れ、幅広く、高度な知識と技能を修得した人材を養成します。



基礎薬学分野

生物有機化学講座

現在使用されている医薬品の約半分は天然資源に由来する有機化合物です。天然にはまだ知られていない生物活性を持つ有機化合物が数多く存在するものと考えられます。当講座では、天然有機化合物をシードとした誘導体合成および生物活性における構造活性相関を評価し、発症予防・治療に効果が期待できる機能性食品・医薬品の開発を目指します。これらを通して、医薬品、機能性食品等の分野の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を育成します。



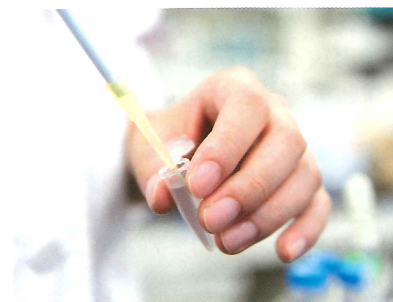
食品機能分野

食品機能学講座

食品・食品成分の生体機能修飾作用の解明、薬物療法と併用される食事療法に有用な機能性食品の開発・設計を目指します。特に、ロコモティブシンドロームを中心に加齢に伴う疾病の予防・治療に有効な食品・医薬品の開発・設計を行います。また、話題となっている「健康食品」等の効果や食毒性の評価についての教育研究を推進します。こうして、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*)の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

機能性食品科学講座

当講座では、生活習慣病やエイジングに対して効果を示す食品、ハーブ類の機能性成分を分析し、細胞実験などにより効果のメカニズムを解析しています。また、遺伝子の網羅的発現解析により食品の新たな機能性の探索を行っています。一方で、植物による機能性成分の効率的生産法の確立を目指しています。有機化学、分析化学、生化学、分子生物学など多岐にわたる分野で研究することにより、高度な知識と技能を修得した人材を養成します。



食毒性分野

生体防御学講座

生体の恒常性を維持する上で必須な食品成分の負的作用(食毒性)を明らかにして、生活習慣病の発症機序を解明するとともに、発症予防と治療法の確立を目指します。特に、糖尿病態時の薬物の吸収・代謝に係る腸管粘膜系と中枢神経系の機能を詳細に解析し、疾病の発症予防や治療に効果が期待できる食品・医薬品を開発します。これらを通して、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*)を幅広く発展させるとともに、疾病の治療・予防、健康維持に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

有機薬化学講座

細胞表層上の糖鎖は、生命体の恒常性維持や疾病の発症、細菌の感染などに密接に関わっています。しかし、糖鎖は天然からは微量しか得られないため、糖鎖を化学的に効率よく構築し、さらにその糖鎖をもとにした人工プローブを設計・合成することで、より深い生命現象を探求することができます。当講座では効率性が高く、汎用性のある糖鎖構築法を開発し、創薬につながる機能性糖鎖誘導体の探索研究を推進します。これらの研究を通じて、化学と生物学の素養を持ち合わせ、医薬品や食品開発に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

病態解析学講座

各種病態、特に運動器の疲労、障害および衰えに対する栄養成分・医薬品成分の保護効果を酸化ストレスや一酸化窒素(NO)を軸に、生理学的、生化学的および分子生物学的な実験的手法により

検討します。また、地域保健の観点から各種健康指標による地域社会の評価、集団へのスポーツ栄養学的介入の効果疫学的な手法により検討します。これらを通して薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*分野)の認識を深め、疾病の治療や予防、食事指導等、健康維持に貢献できる高度な知識と技能を修得した人材を養成します。

薬物療法学講座

疾病治療における医薬品と食事・食品(食品成分)・栄養状態の相互作用を明らかにし、発現機序を解明するとともに安全で有効な薬物療法の確立を目指します。また、健康食品の素材として汎用され、セルフメディケーションへの応用が期待されるメディカルハーブの有効かつ安全使用の観点から、メディカルハーブの新たな機能性の解析及び医薬品との相互作用について検討します。これらを通して薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*分野)の認識を深めると同時に、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる高度な知識と技術を修得した人材を養成します。

分子栄養学講座

代謝調節に及ぼす栄養状態や食品成分・栄養素の有益な作用(機能)と有害作用(食毒性)を解明することにより、生活習慣病の発症予防と治療法の確立を目指します。特に、糖・脂質代謝および骨代謝における脂肪酸と治療薬との相互作用について解析し、得られた情報を栄養管理や食育のためのエビデンスとして提供します。これらを通して、Pharma-Nutrition*分野を幅広く発展させ、広い視野に立った学識の涵養を図るとともに、疾病の予防法と治療法の開発に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

食毒性学講座

栄養素や食品成分の生体機能に与える影響について、生活習慣病等慢性疾患の発症と増悪へ及ぼす効果(食毒性)ならびにそれらの発症を抑制、生体の恒常性を維持し健康増進に寄与する効果(機能性)を、生化学的・分子生物学的・調理科学的手法から研究を実施することで、疾病予防、治療補助的な視野に立った効果的な食事設計と機能性食品の開発を通じて、薬学分野と食品・栄養分野の学際領域(Pharma-Nutrition*)の認識を深め、疾病の治療・予防、健康管理に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

臨床栄養学講座

健康者・傷病者の良好な栄養状態を維持するために必要な栄養素の作用や最適な身体状態を明らかにし、メタボリックシンドロームなどの代謝性疾患の発症機序を解明するとともに、発症予防と治療法の確立を目指します。特に、栄養素の肝臓、腎臓、内臓脂肪に与える影響を解析します。また、内臓肥満と栄養状態との関連を検討し、効果が期待できる代謝異常や臓器障害の予防法や治療法を確立します。これらを通して、疾病の治療や予防、さらには健康維持に貢献できる、きわめて高度な知識と技能を修得した研究者を養成します。

Keyword

Pharma-Nutrition とは

これまでの薬学的な視点に加えて、薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置して両者を融合させた学際分野を Pharma-Nutrition と呼んでいます。



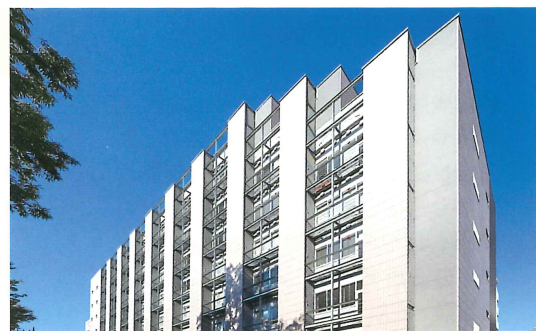
16号館

地上6階、延べ面積6,891㎡からなる16号館には、薬学部医療栄養学科を基礎とする医療栄養学専攻の11の講座があります。各講座には、研究に必要な機器が配備されており、この他に共通の機器や特殊な装置を備える実験・実習室があります。5、6階は研究エリアとして、遺伝子組換え室、滅菌室、培養室、栄養関連実験室、被験者室、動物室、低温室、共通機器室があり、実験内容に応じた機器・装置が配置され、高度な研究をサポートしています。4階は、大学院専用講義室とセミナー・演習室合わせて9教室、加えて栄養指導・栄養療法に必須な3つの実習室と栄養計算演習室、さらには大学院学生専用学習室があります。1～3階は学部生のための講義および各種実習室があり、3階までの吹き抜けにラウンジが備えられた開放感ある空間の中に機能的に配置されています。



18号館

薬科学専攻（博士前後期課程）と薬学科の教育・研究の拠点となる複合施設です。地上7階建て、延べ面積は7,957㎡であり、8講座の教授室、実験室、さらには学生研究室をはじめ、大・中の講義室、大演習室、大実験室、コンピュータールームの他、多目的（セミナー、会議等）に利用できる演習室が多数あります。共通機器室には先端機器が設置されており、他に実験動物室、無菌操作室、TDM室、模擬薬局、調理室なども備えています。また、1～7各階にラウンジと展示スペースがあり、コミュニケーションの場を提供しています。



21号館

2017年春に竣工したばかりの地上9階建て、延べ面積11,590㎡の施設は、博士課程薬学専攻の講座、講義室、コンピュータールームの他、アイソトープセンターも組み込んだ研究・教育の先端設備を備えています。また、大学院学生のための事務手続き・相談業務の窓口となる事務部門も設置されています。隣接する薬用植物園にはセミナー等が開催可能な小校舎が設置されており、地域に密着した教育を実践しています。



アイソトープセンター（21号館内設置）

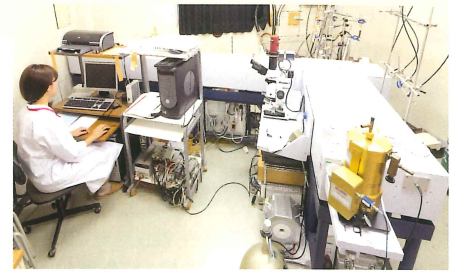
アイソトープセンターは、利用者の便宜と安全に配慮して運営され、 ^3H 、 ^{14}C 、 ^{32}P 、 ^{35}S 、 ^{125}I など22核種が使用できます。動物飼育装置、細胞培養装置、種々の分析装置を備えており、化学合成実験、動物実験、*in vitro*トレーサー実験等に幅広く対応できる施設です。標識化合物合成、薬物動態解析、代謝機能解析、細胞機能解析、遺伝子解析などの薬学・栄養学領域のさまざまな研究に利用され、教育・研究において大きな成果をあげています。

アイソトープセンター設置機器

- ▶ 液体シンチレーションカウンター
- ▶ オートウェルアカウンター
- ▶ 動物乾燥装置
- ▶ 動物飼育用フード
- ▶ ハンドフットクロスモナ
- ▶ 分離用小型超遠心機
- ▶ 高速冷却遠心機
- ▶ マイクロプレートリーダー
- ▶ 超低温フリーザー

機器分析センター

機器分析センターは薬学部と理学部の教育・研究の支援を目的とした共同利用施設です。独立した2階建て、延べ面積は926㎡の機器分析センター棟(22室)に加え、生命科学センター(1室)、薬学部棟(16号館に1室)に機器分析センター分室を有しており、24機器室で構成されています。ここでは技術革新により大型化・精密化する高性能大型分析機器を集中的に設置・運用・管理しています。各分野における最先端機器は常時稼働状態になっています。主要な機器は管理責任者が保守点検や測定指導にあたり、また利用頻度の高い機器や高度な測定技術が必要な機器の場合は専任職員が測定を行っています。ここに設置された最先端機器によって得られたデータは教員・大学院生・学生の教育・研究に活用され、学術論文として数多く専門誌などに発表されています。



設置機器

- ▶ CPAD搭載高輝度2波長単結晶X線構造解析装置
- ▶ 核磁気共鳴装置(700MHz,400MHz)
- ▶ MALDI-TOFMSシステム
- ▶ ガスクロマトグラフ質量分析装置
- ▶ 液体クロマトグラフ質量分析装置(LC-MS/MS)
- ▶ 円二色性分散計
- ▶ IPワイゼンベルグ単結晶自動X線構造解析装置
- ▶ X線回折装置
- ▶ 元素分析装置
- ▶ 細胞画像解析システム
- ▶ フローサイトメーター
- ▶ エネルギー分散型蛍光X線分析装置
- ▶ DNAシーケンサー
- ▶ リアルタイムPCR解析装置
- ▶ 密度勾配超遠心分離システム
- ▶ 超遠心機
- ▶ 分離用小形超遠心機
- ▶ 2D画像解析システム
- ▶ 超高分解能フーリエ変換赤外分光システム
- ▶ 表面プラズモン共鳴分析装置
- ▶ 全自動アミノ酸分析装置
- ▶ 実験動物用X線CT装置
- ▶ 走査電子顕微鏡X線分析システム装置
- ▶ 原子吸光度計
- ▶ 熱分析装置



生命科学センター(実験動物施設)

教育・研究に不可欠な実験動物の質的向上と、その飼育管理条件の向上を図るための施設です。本施設は、鉄筋コンクリート6階建てで、総面積806㎡からなり、コンベンショナル動物、SPF動物、感染動物の飼育施設を有しています。薬学、理学の教育・研究を支援するとともに、民間からの受託研究・共同研究なども行っています。特にアイソレータを備え付けたSPF動物実験室では、さまざまな物質の刺激性試験や経皮適用型製剤の吸収実験などに利用されるSPFヘアレスラットを開発しており、多方面の研究所に分配しています。また、感染動物実験室では、P-2レベルのバイオハザード実験が可能です。



城西大学薬局

城西大学は、隣接する明海大学病院と埼玉医科大学病院前に付属薬局を置いています。ここでは、薬学専攻、薬科学専攻、医療栄養学専攻、薬学部の3学科(薬学科、医療栄養学科および薬科学科)が共同して薬局の研究を行い、職種間協力およびこれによる地域社会への貢献について、新たな在り方・方法論の提案を目指しています。超高齢社会を迎えた日本においては、医療・介護を含めた地域社会の再構築が必須の状況であり、保険医療、セルフメディケーションおよび介護用品の販売等を行うことのできる薬

局は、地域包括ケアシステムの中で、かかりつけ薬剤師、健康サポート薬局、さらには他職種と連携して在宅医療を推進するための拠点として、他の医療施設にない貢献をきたしうるものです。城西大学薬局では薬局のあるべき姿の探求を掲げ、在宅医療における管理栄養士の役割、不適切薬剤削減、多職種連携、市販医薬品のエビデンスの構築等の研究、発表を行っています。これら大学院による薬局の研究・アウトカムの探求は、付属薬局を有する大学ならではのものです。

薬学研究科 共通機器

16号館

- ▶ プレートリーダー
- ▶ リアルタイムPCR
- ▶ 自動パラフィン切片作製装置
- ▶ 凍結切片作製装置
- ▶ プロテインシーケンサー
- ▶ ガスクロマトグラフ
- ▶ 動物呼吸代謝測定装置
- ▶ 自動ケルダール装置
- ▶ イムノウオッシュ

18号館

- ▶ LC-MS/MS
- ▶ HPLC
- ▶ GC
- ▶ 蛍光・吸光プレートリーダー
- ▶ マイクロチップ電気泳動装置
- ▶ DNAマイクロアレイ
- ▶ リアルタイムPCR
- ▶ 遠心機
- ▶ 倒立型位相差顕微鏡
- ▶ 乾熱滅菌器
- ▶ 1μL分光光度計
- ▶ 生体顕微鏡
- ▶ 共焦点レーザー顕微鏡
- ▶ 溶液安定性評価装置
- ▶ 肌弾力性評価装置
- ▶ レーザードップラー血流画像化装置
- ▶ 顔皮膚画像解析カウンセリングシステム
- ▶ クライオスタット

21号館

- ▶ HPLC
- ▶ GC-MS
- ▶ マルチマイクロプレートリーダー
- ▶ エレクトロポレーション装置
- ▶ サーマルサイクラー
- ▶ リアルタイムPCR
- ▶ 超純水製造装置
- ▶ ゲル撮影装置
- ▶ クライオスタット
- ▶ FTIR
- ▶ 旋光計
- ▶ 粘度計
- ▶ 粒度分布測定装置
- ▶ 温度可変型インキュベーター
- ▶ 遠心濃縮機
- ▶ マルチフォトダイオードアレイ
- ▶ 凍結乾燥機

施設・設備

FACILITIES

研究をバックアップする安心の環境

セキュリティ対策も万全に、安全・安定的に研究を進めることのできる充実した環境を整えています。

水田記念図書館

水田記念図書館は、自然科学系から人文・社会科学系まで幅広い分野の蔵書構成が特徴です。46万冊の蔵書があり、雑誌・電子ジャーナル（1万誌）のほかに、マイクロフィルム、CD-ROM、視聴覚資料のビデオ・DVD等を収集しています。また、城西大学機関リポジトリJURAは、本学に在籍する研究者の学術雑誌掲載論文、紀要論文、科学研究費補助金成果報告書、学位論文、研究発表資料などの学術情報をアーカイブし、広く世界に発信しています。平日は夜9時まで、土曜日は午後7時まで、日曜日も午後5時まで開館しています。独自の取り組みとして、外部講師による著作権講演会での学生・教員への倫理教育、「図書館学生アドバイザー」による学習相談などの活動も行っています。また、日本薬学図書館協議会（JPLA）に加盟するとともに、埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）にも加盟して、相互協力、情報交換を密にしています。水田記念図書館は、近隣の6市町（坂戸、鶴ヶ島、日高、飯能、毛呂山、越生）と連携し相互協力を図り、学外の方の利用も可能とする開かれた図書館としての機能を果たしています。

科学・薬学・医学系主な電子ジャーナル

- ▶ Science Direct (Elsevier)
(購読タイトル60誌+エルゼビアのほぼ全てのジャーナル
約2,500誌にアクセスできるフリーダムコレクション)
- ▶ Springer Nature Core (1,685誌)
(Springer Link+Academic Journal on Nature.comほか)
- ▶ Oxford Journals (OUP) (320誌)
- ▶ Wiley Online Library (1,470誌)
- ▶ Thieme (4誌)
- ▶ Annual Review (8誌)
- ▶ ACS (American Chemical Society)
- ▶ RSC (The Royal Society of Chemistry)
- ▶ Science Online
- ▶ Nature, Nature Medicine など

科学・薬学・医学系主なデータベース

- ▶ SciFinder (Chemical Abstracts Service)
(化学を中心とする医薬・生化学・物理・工学等の科学情報へ簡単にアクセスできる基本的なデータベース)
- ▶ Scopus (Elsevier) (世界最大級の学術情報ナビゲーションツール) (書誌・引用文献データベース)
- ▶ Cochrane Library (Wiley) (EBM情報データベース)
- ▶ JoVE サイエンスエジュケーション データベース (実際の映像で実験の基礎を学習できる日本語ビデオ学術誌)
- ▶ 医中誌 Web (学中央雑誌刊行会) (国内医学論文情報のインターネット検索サービス)
- ▶ JDream III (科学技術振興機構) (日本最大の科学技術文献情報データベース)
- ▶ メディカルオンライン(メテオ) (国内医学会誌・学術専門誌の検索・全文閲覧可能な会員制医学総合サイト)

デジタルアーカイブ

- ▶ 城西大学機関リポジトリ (JURA)
- ▶ 漢方古書資料デジタルアーカイブ



情報科学研究センター

教育・研究でのインターネットの利用が急速に普及するのに伴い、ネットワークシステム利用上の情報倫理規定の下で高度なセキュリティ対策が図られています。情報教育システムは、学内演習室内の700台余りのパソコンに加え学生・研究者の2,500台を越える端末機器を統括するためのサーバ環境にブレードサーバへの仮想化ソフトを搭載し、物理サーバの台数を集約してCO₂排出量の削減にも対応しています。学内LANの高速化によって研究室から学内外のデータベースへのアクセスや、e-ラーニング、マルチメディア利用による授業展開に対して、安定した環境が確保されています。



16号館栄養計算演習室 18号館実習計算室 21号館実習計算室

3室には、コンピューターが計200台以上設置されており、レーザープリンターとともに大学院生は自由に利用することができます。また、建物内の多くは無線LANによるネットワークの環境が整っており、学生自身のコンピューターで常時利用することが可能です。文献などのダウンロードや、データベースへのアクセス環境も整備されています。また、学会用の大判ポスター作成専用のプリンターが別に設置されています。





城西大学の建学の精神と目標

城西大学は、建学の精神「学問による人間形成」に基づき、「社会が発展するために必要とされる人材を育成することによって、人類の福祉に貢献すること」を大学の理念として発展してきました。この理念は今も生き続けており、広い知識と深い専門性を学ぶことを通して、グローバルな社会で必要とされる知的、道徳的能力を身につけた、実社会に貢献できる人材の育成を目標にしています。すなわち、専門的な知識と広い教養をともに持った好奇心あふれる人材、国際社会でも活躍できる広い視野を持つ創造的な人材、知識だけでなく人として適切な判断力を持つ責任感のある人材など、これからの未来社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

城西大学の沿革

1965年(昭和40年) 1月	学校法人城西大学 設立認可
4月	城西大学開設 経済学部 経済学科 理学部 数学科・化学科 開設
1971年(昭和46年) 4月	城西大学 経済学部 経営学科 開設
1973年(昭和48年) 4月	城西大学 薬学部 薬学科・製薬学科 開設
1977年(昭和52年) 4月	城西大学 大学院 薬学研究科 修士課程 薬学専攻 開設
1978年(昭和53年) 4月	城西大学 大学院 経済学研究科 修士課程 経済政策専攻 開設
1979年(昭和54年) 4月	城西大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 薬学専攻 開設
1990年(平成 2年) 4月	城西大学 別科 日本文化専修課程・日本語専修課程 開設
1998年(平成10年) 4月	城西大学 大学院 理学研究科 修士課程 数学専攻 開設 城西大学 大学院 薬学研究科 修士課程 医療薬学専攻 開設
2001年(平成13年) 4月	城西大学 薬学部 医療栄養学科 開設
2003年(平成15年) 4月	城西大学 大学院 経営学研究科 修士課程 ビジネスイノベーション専攻 開設
2004年(平成16年) 4月	城西大学 大学院 理学研究科 修士課程 物質科学専攻 開設 城西大学 経営学部 マネジメント総合学科 開設
2005年(平成17年) 4月	城西大学 大学院 薬学研究科 修士課程 医療栄養学専攻 開設
2006年(平成18年) 4月	城西大学 現代政策学部 社会経済システム学科開設 城西大学 薬学部 薬学科(6年制)・薬科学科(4年制) 開設 城西大学 薬学部 薬学科(4年制)・製薬学科(4年制) 募集停止
2010年(平成22年) 4月	城西大学大学院 薬学研究科 博士前期課程薬科学専攻開設
2012年(平成24年) 4月	城西大学大学院 薬学研究科 博士課程薬学専攻・博士後期課程薬科学専攻開設
2015年(平成27年)	城西大学創立50周年

ごあいさつ



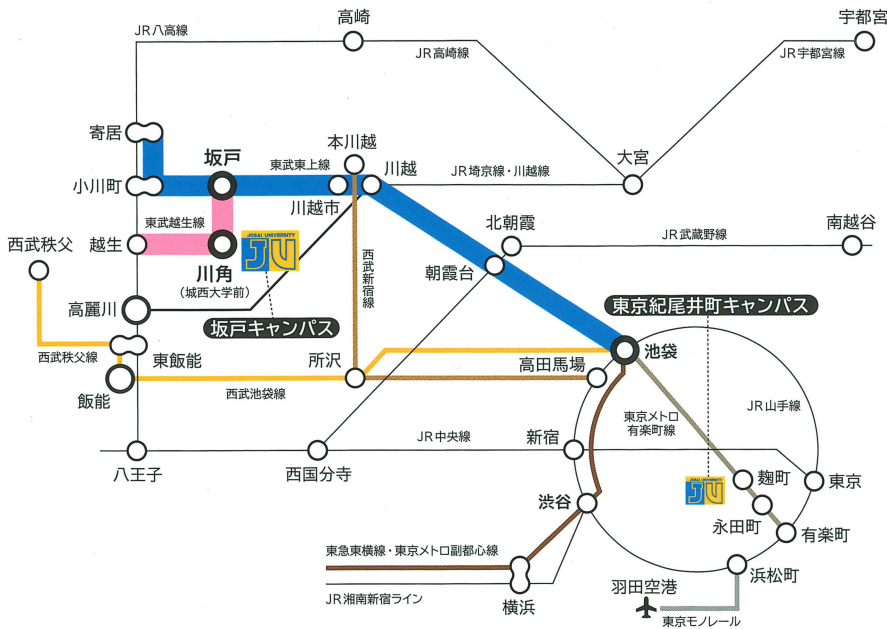
高度化するグローバル社会で 城西大学大学院 薬学研究科が果たす役割

現在の大学生が卒業後に生きていく社会は、情報技術が高度化したグローバルな社会であることに疑う余地はありません。人工知能が社会システムのすべてを掌握し、単純な作業はロボットが担うことになるでしょう。そうであれば、目先の知識や技能の修得に頼るのではなく、10年後、20年後を見据えたような変化にも対応できる能力の修得が必要になります。このために、大学院でしか得られない「博士や修士の学位」は、今後のグローバル社会で実力のバロメーターになるはずで

す。大学院は、「課題発見能力・問題解決能力」を養成する学府であり、「科学する心」をさらに高度化することを使命としています。城西大学大学院 薬学研究科では、薬剤師養成課程の薬学科から高度な職業人教育を担う博士課程 薬学専攻へと繋げています。また、薬学部にある医療系の管理栄養士養成課程(医療栄養学科)から、博士前期課程の医療栄養学専攻において高度な栄養管理を担う人材を、薬科学技術者を養成する薬科学科からは薬科学専攻へと繋げ、続く博士後期課程 薬科学専攻では、極めて高度な人材を育成していきます。このように薬学部が3学科体制で連携し、大学院では4専攻を擁する極めて高度な専門職業人を養成できる組織は他大学にはない特徴です。さらに、将来の薬学分野に必要とされるニーズをいち早く提言できるように、博士前期課程では2つの政策管理分野に社会人や文系学部出身の入学を受け入れ、教育の裾野を広げています。40年を超える歴史ある城西大学大学院 薬学研究科は、優れた理念のもとで時代に即した高い専門性を有する教育を今後も提供して参ります。

城西大学
大学院 薬学研究科長

日比野 康英



[坂戸キャンパス徒歩最寄り駅]

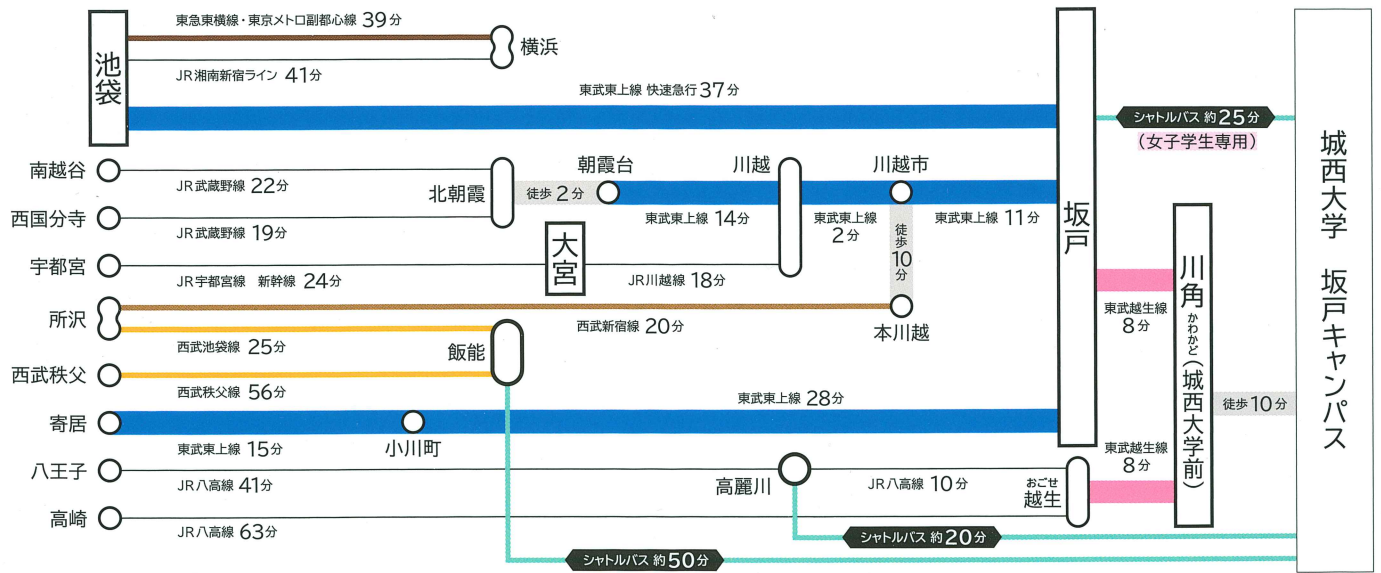
東武越生線
川角駅 より徒歩 10分



[坂戸キャンパス車でのアクセス]

関越自動車道
鶴ヶ島ICより 車で 20分

※学生用駐車場あり。



[シャトルバス案内]

坂戸キャンパスまでの所要時間

東武東上線 坂戸駅	25分 (女子学生専用)
JR八高線 高麗川駅	20分
西武池袋線 飯能駅	50分

※時刻表は本学ホームページでご確認いただけます。

[キャンパスマップ]



JU 城西大学

大学院 薬学研究科

<http://www.josai.ac.jp/>

願書請求・問い合わせ先 / 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
代表: TEL.049-286-2233 入試課: TEL.049-271-7711

資料請求は
こちらから

